

JPA
公認審判試験
8月29日(日)
東京開催

パワーリフティング審判員を やってみませんか？

パワーリフティング・ベンチプレス競技には試技を判定する「JPA公認審判員」が必要です。
東京都パワーリフティング協会では、審判になりたい方を募集しています。
興味がおありの方は、8月29日(日)に都内江東区内で開催する
JPA公認審判認定試験にチャレンジしてみたいはいかがでしょうか？

01 ルールに詳しくなる

審判はルール番人だ。各試技の判定をすることに加え、大会時の検量やコスチュームチェックを実施するのも審判の役目。試合中は再試技の対応など、イレギュラーへの判断も求められるため、必然的にルールに詳しくなる。

02 試合を特等席で見られる

試合中、選手に最も近いところで試技を見ることができるのは審判ならではの特権。責任が伴う業務ではあるものの、日本トップクラスの選手の試技を自らが判定できるというのは、審判冥利に尽きる貴重な経験になるはず。

03 自分の試技の成功率が上がる

審判として熟練してくると、自らの試技を客観的に見るようになる。そのため、ルールでの判定基準に加え「いかに審判員が判定しやすい試技をするか」を意識できるようになり、試技成功率がぐんとアップする。

04 選手とは違う充実感がある

選手は必死で試技をするが、同様に審判も真剣だ。1セッション終えただけでも予想以上に疲れるもの。審判は選手の競技人生を左右する立場であることを認識し、真剣にジャッジすることで、大きな充実感も味わえるのだ。

05 競技人生の幅が広がる

審判には興味がないという選手も多いが、選手活動と兼務することで、知識や人脈も広がるというもの。パワーリフティングという世界の中で、選手のみならず審判としての技術を突き詰めることで生まれてくる楽しさがある。

06 運営に関わる楽しさがある

試合は選手がいないと実施できないが、同時に審判や補助員、運営役員がいなければ成り立たない。観戦に来るだけではなく、審判登録をして大会運営に直接関わることで、選手活動だけでは味わえない独特の達成感がある。

8月29日(日)当日は試験と併せて審判講習会も実施されます。
すでに審判資格をお持ちの方もご参加いただけます。

開催要項確認、お申込み方法は東京都パワーリフティング協会ホームページをご確認ください。
<https://powerlifting.tokyo/>